

19.2 keV) のあるものが多い事がわかった。軟X線成分は必ずしも直接に電子流から発生する必要はなく、恐らくコロナの中に生じたある種の不安定の結果であると彼等は考えている。勿論、III型バーストやX線放射と全く無関係なサージもあり、H α 単色写真で見た場合、これらと両方を伴なうサージは全く区別できない。

8. おわりに

1個のサージが放出する物質は 10^{14} — 10^{15} グラム、その全エネルギーは 10^{28} — 10^{29} エルグに達するものと思われる。この莫大な物質とエネルギーはすべて根もとの小領域の爆発で供給される。彩層でこのような激しい現象が起っているにもかかわらず、その下の光球の速度場にはほとんど影響が現われていないのは不思議である。キーペンホイア (1968) の云うようにサージの物質が光球層から供給されているならば、当然、然るべき変化が光球に見えるはずである。では一体どのように供給されるのだろうか。また、彩層中の爆発現象であるエラーマンポンプのガスの非熱的運動とサージの一次元的な運動とはどのように結びついているのか。サージをめぐる謎はつきない。

雑報 [I]

1974年射手座新星

大分県日田市の桑野善之氏は1971年のケフェウス座新星 (IV Cep) に続いて、1974年10月6日 $10^h33^m \sim 10^h36^m$ (U.T.) に撮影した射手座のフィルムで新星を発見した。Dr. Elias による精測位置は次のとおりである。

$$\alpha = 17^h45^m43^s.84 \quad \delta = -18^\circ44'39".8 \quad (1950.0)$$

その後の分光観測によると、極大から2.5等級程度暗くなった時期である。

Honda-Mrkos-Pajdušáková (1974f) 彗星の検出

1948年に発見されたこの彗星の5回目の回帰が、Roemer 女史によって1974年11月10日 (U.T.) に核光度 $19 \sim 19.5$ 等で検出された。Dr. Marsden の予報によると、近日点通過は1974年12月28.1355日 (E.T.) である。光度は近日点通過の頃が最も明るく、その頃の予報に置はつぎのようである。

		α (1950.0)	δ	核光度
1974年	24日	20 38.1	-17 00'	
	29日	20 52.2	-19 09	12.9
1975年1月	3日	21 04.2	-22 22	
	8日	21 13.9	-26 58	12.7
	13日	21 21.1	-33 14	

(香西洋樹)

★★★★★★★★★★★★

— わが国唯一の天体観測雑誌 —

天文ガイド

毎月5日発売! 定価240円(〒32)



天文ファンの人たちに毎月の天文現象の案内や、ニュースの紹介をするとともに、望遠鏡の作り方、観測ガイド、天体写真の写し方など実用記事も掲載。また、読者の写した天体写真、星座写真等たくさんさんの作品や望遠鏡の自作レポートも網羅。

誠文堂新光社 東京・神田錦町一—五 振替・東京六二九九

★★★★★★★★★★★★

天文に興味を持ちはじめた小学校上級生から中学校1年生ぐらいの子供たちのための天文入門書

星空の12ヵ月

古畑正秋著 / A4判 / 定価 900円

12枚の毎月の星図を中心に、星座の話、星の明るさ、金星や火星の動き、流星、月のこと、天の川、変光星のことなど、はじめて星に心をうばわれた少年たちにわかるようにやさしく説明してあります

■おもな内容——星座のさがしかた / 星座の歴史 / 星座の表 / 星の明るさ / 日出、日入の薄明 / 1月の空 / 冬のおもな星座 / 2月の空 / 星雲と星団 / 3月の空 / 金星のうごき / 4月の空 / 春のおもな星座 / 5月の空 / 火星の動き / 6月の空 / 7月の星座 / その他